

野外活動のための 安心・安全講座

2021 年発行版

SCOUTING

スカウティング誌掲載記事

[2021年5月号～2022年3月号 抜粋]

目次

- 2021年(令和3年) 5月号 2019(令和元)年度 そなえよつねに共済 事故データ分析 ……02
 7月号 東日本大震災10年～地震列島日本に喜らず～ ……04
 9月号 「自分だけは大丈夫」と思っていないませんか?～正常性バイアスと事故・災害～ ……05
 11月号 ご存知ですか? 救急箱の新常識～お互いを守るための提案～ ……06
 2022年(令和4年) 1月号 え! いけないの? 「お薬あるある」NG事例 ……07
 3月号 本当にそれでいいのかな?～計画書作成、下見実施、保険加入のあるある～ ……08



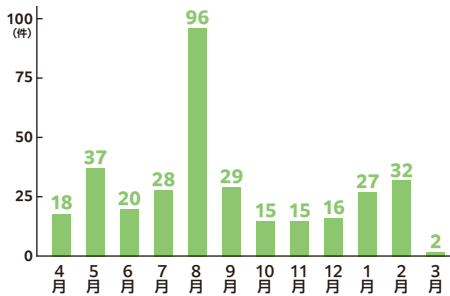
2019 (令和元) 年度

そなえよつねに共済 事故データ分析

「そなえよつねに共済」で取り扱った事故データ分析の結果をまとめましたので報告いたします。2012年度から全加盟員が保険（2014年度からは共済）対象となり、ボーイスカウト全体における事故の傾向が把握できるようになりました。事故発生件数（報告件数）は前年度と同様の335件で、傷病の延べ数は495件でした。いくつか気づいた点をコメントしましたので、安全管理の参考にいただければ幸いです。

発生月別

■ 月別事故発生件数 (n=335)

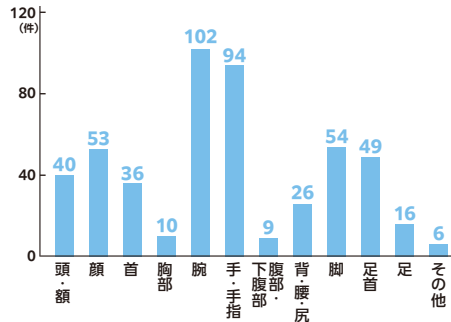


8月に事故事例が多い傾向は例年と同様で、全事故件数の約28.7%を占めています。8月の事故を分析すると、前年度(2018年度: 63件)より33件増加の96件で、そのうち88件が夏季活動(野営や倉営)中に発生しています。薪割り中の切り傷や火起こし中のやけどなどがみられますが、ハチやブユ、ダニによる虫刺され等も数多く報告されています。服装に注意を払うことや、害虫対策を行うことが必要です。

3月の事故発生件数が極端に低くなっていますが、これは新型コロナウイルスによる活動数の低下によるものだと思います。

部位別 (延べ数)

■ 部位別事故発生件数 (n=495)



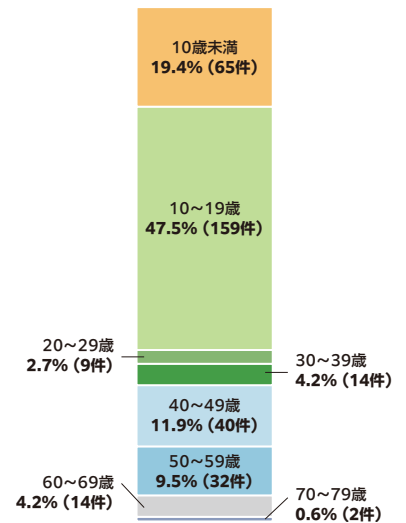
昨年からの傾向ですが、頭や額に対する受傷数が減少しています。一方、腕や手、手指に対する受傷数が前年度(161件)より35件増加の196件となっています。腕はスキー、スノーボード、スケートなどの冬季活動中の受傷が多くなっており、内容としては骨折などがあげられます。

また手や手指において気になることは、左手指の受傷数が右手指の3倍にのぼることです。内容を見ると、薪割り中や調理中の受傷が多くなっています。これは右利きの人が多いこと由来すると思われます。薪割りや調理の際の注意事項を今一度確認し、十分にスカウトを指導してください。

年代別

年代別では、19歳までの割合が約70%にあたる224人でした。20代9人、30代14人と少数ですが、40代40人、50代32人、60代14人となっており、70代でも2人の事故報告がありました。

■ 年代別事故発生割合 (n=335)

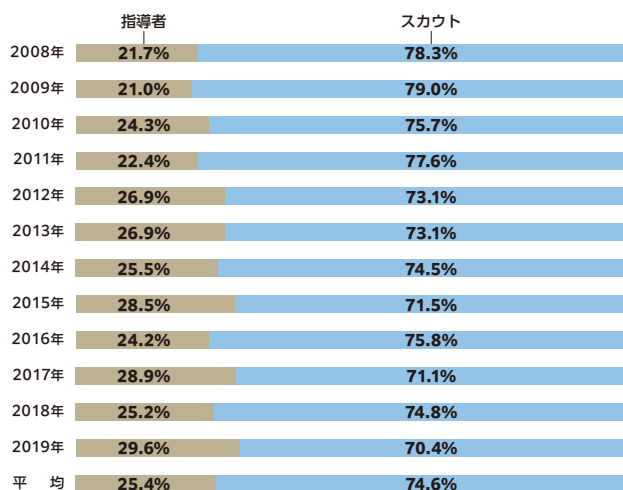


部門別

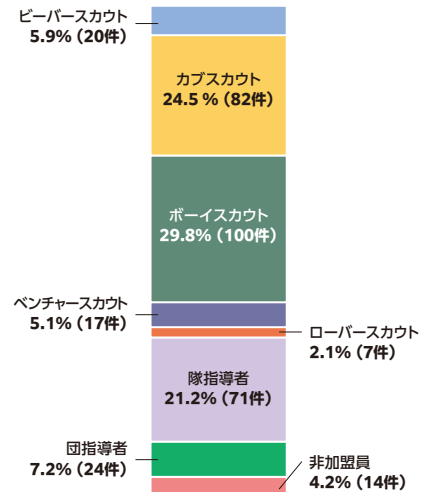
部門別の傾向は、ビーバースカウトが0.7%減少、カブスカウトが1.5%減少、ボーイスカウトが1.5%減少、ベンチャースカウトが4.1%減少、ローバースカウトが0.9%増加しました。

全事故に占める割合(非加盟員を除く)は、スカウト全体で70.4%と、前年度より4.4%減少しました。一方、指導者の割合は29.6%と、前年度より増加しています。

■ 指導者/スカウトの事故発生割合の変化 (n=全体数335-非加盟員14)



■ 部門別事故発生割合 (n=335)



部門別 上位3傷病

	1位	2位	3位
ビーバースカウト	打撲(6件)	裂けた傷/骨折/脱臼・捻挫・靭帯損傷(各3件)	刺し傷/やけど(各2件)
カブスカウト	骨折(23件)	脱臼・捻挫・靭帯損傷(15件)	裂けた傷/切り傷/打撲(各12件)
ボーイスカウト	切り傷/骨折(各20件)	やけど(10件)	裂けた傷/打撲(各7件)
ベンチャースカウト	骨折(8件)	切り傷(6件)	脱臼・捻挫・靭帯損傷/打撲/やけど(各2件)
ローバースカウト	打撲(3件)	骨折(2件)	切り傷/脱臼・捻挫・靭帯損傷(各1件)
指導者	骨折(42件)	打撲(25件)	脱臼・捻挫・靭帯損傷(21件)

活動内容

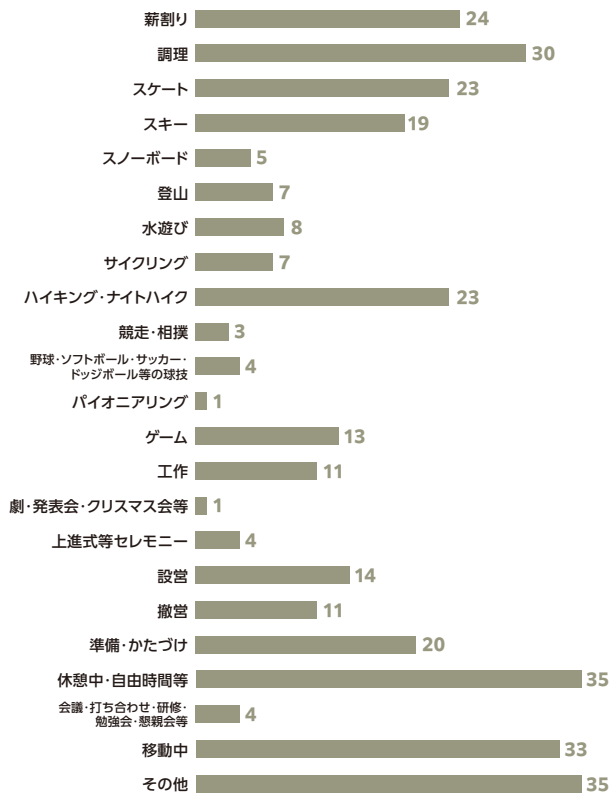
ビーバースカウト部門での事故1位は「移動中」で7件、2位は「休憩中・自由時間等」で4件でした。移動中は帰宅前後の時間などに発生しています。全発生件数が20件のビーバースカウト部門において、半数以上は活動外（プログラム以外の時間）で発生しています。活動前後や休憩時間も十分な安全対策を講じることが必要です。

カブスカウト部門での事故1位は「休憩中・自由時間等」で12件、2位は「スケート」で10件でした。ビーバースカウト部門と同様に、活動外の時間での発生もみられますが、多くの発生が活動中になります。

ボーイスカウト部門での事故1位は「薪割り」で15件、2位は「休憩中・自由時間等」で14件でした。薪割りでの件数は昨年度よりも増加しています。保護具の着用などの教育はもちろんですが、なぜ着用する必要があるのかなどの理由を明確にして指導することも必要です。

ベンチャースカウト部門での事故1位は「スノーボード」「移動中」でそれぞれ3件でした。ローバースカウト部門での事故1位は「スキー」「移動中」でそれぞれ2件。指導者の事故1位は「準備・かたづけ」で10件、2位は「スキー」「ハイキング・ナイトハイク」でそれぞれ9件でした。

■ 活動内容と事故発生件数 (n=335)



■ 部門別 最も事故が多かった活動内容

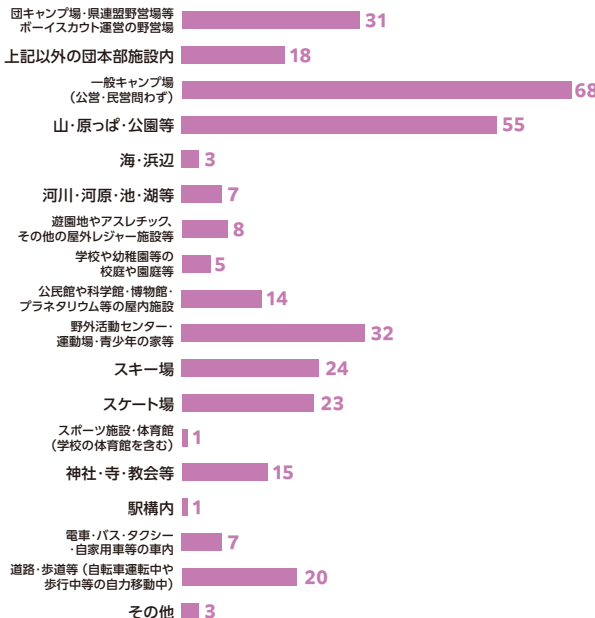
	プログラム
ビーバースカウト	移動中 (7件)
カブスカウト	休憩中・自由時間等 (12件)
ボーイスカウト	薪割り (15件)
ベンチャースカウト	スノーボード/移動中 (各3件)
ローバースカウト	スキー/移動中 (各2件)
指導者	準備・かたづけ (10件)

発生場所

事故の発生場所として最も多かったのは「一般キャンプ場」でした。ついで「山・原っぱ・公園等」です。前年度と傾向は変わりません。野外での活動が増えることで、事故発生の可能性が高くなるということを今一度理解する必要があります。

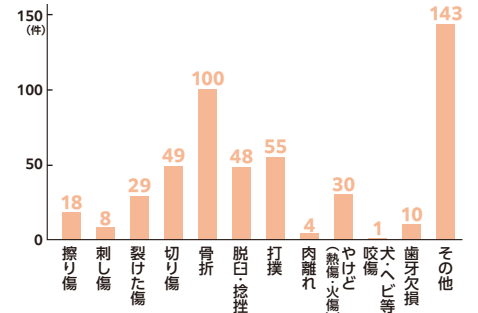
また、移動中の事故発生も多くなっていることがわかります。交通事故など命に関わるものも発生していますので、十分注意することが必要です。

■ 発生場所と件数 (n=335)



傷病別 (延べ数)

■ 傷病別事故発生件数と事故割合 (n=495)



傷病別では、「骨折」の割合が最も多く、前年度 (94件) より6件増加の100件で第1位でした。第2位は「打撲」で、前年度 (45件) から10件増加の55件でした。第3位の「切り傷」は前年度 (68件) から19件減少の49件でした。これら3傷病で全傷病の41.2%を占めています。

「骨折」は、うち32件が指導者によるものでした。スカウトの骨折の場合、入院は長くとも10日程度でしたが、指導者の場合は1か月以上入院するケースもみられます。「骨折」は、スカウト活動のみならず、日常生活にも大きな影響を及ぼしますので、十分注意しましょう。

また、「その他」の中で気になったのが、ハチやブユ、ダニによる虫刺されです。前年度に比べても増加しています。服装や害虫対策などに十分に配慮してください。

まとめ

共済事業に移行して6年。全体的な傾向は大きく変わりませんが、いくつか気になった点があります。各項目について、過去の本誌で参考になるものを示しますので、こちらもあわせてご覧ください。

ひとつは、虫刺されによる受傷が増加傾向にあることです。蚊やダニなどは、節足動物媒介感染症 (蚊やダニなどから伝播される寄生虫、ウイルス、細菌などによって人に起こる疾患のこと) を引き起こす可能性があります。活動時に「長袖を着る」「虫除けスプレーなどの防虫剤を塗る」「蚊取り線香等を焚く」などして、虫刺され受傷の低減に努めてください。[参考: 本誌2016年7月号「地球温暖化と安全」]

次に、休憩中の事故発生の再度防止徹底のお願いです。ビーバースカウトやカブスカウトにとって、休憩時間は自由時間です。休憩時間中の活動範囲をあらかじめ明確に指定する、指導者や保護者の協力を得て、休憩時間中も安全管理を十分に行うなどして事故の防止に努めてください。[参考: 本誌2014年9月号「休憩・自由時間中の事故」]

最後に、指導者の事故発生件数の増加です。件数、割合ともに増加傾向が続いています。指導者の受傷は重症化しやすく、完治までの期間も長くなります。安全対策を十分に行い、無理をせず、他の指導者や保護者、関係者と協力をしながらスカウト活動を行っていただければと思います。[参考: 本誌2011年9月号「減少しない指導者の事故」、2011年11月号「指導者自身の安全の確保を」]

「セーフ・フロム・ハーム」・安全委員会

東日本大震災10年 ～地震列島日本に暮らす～

1. はじめに

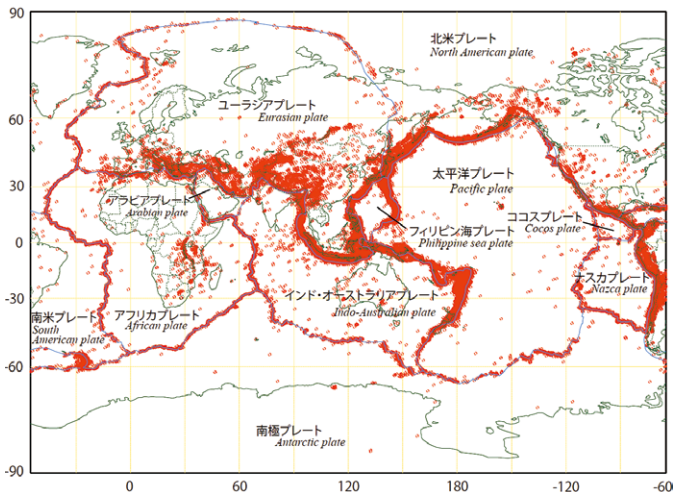
私たちは地震大国といわれる日本に住んでいます。小さな地震は日常的に経験しているためか「あ、また地震か」「この間の地震より小さいから大丈夫だな」などとやり過ごしてしまう傾向があります。これは人間の心もつ特性で、無意識に都合のよい情報だけを見てしまったり現実を過小評価して、安心を得ようとするもので「正常性バイアス」と呼ばれます。

東日本大震災では、巨大な津波を伴い、15,899人が亡くなり、2,526人が現在も行方不明です(2021年3月)。また、これまでの10年間に死者が出た地震は10回にのぼります。

大丈夫だろうという感覚だけでは絶対に対応できない地震や津波の脅威についての十分な知識と防災のスキルをもつことが不可欠です。

2. 地震や津波の脅威

中学校や高校で学習したと思いますが、日本付近は海のプレートである太平洋プレート、フィリピン海プレートが、陸のプレートである北米プレートとユーラシアプレートに向かって数cm/年の速度で動いており、陸のプレートの下に沈み込んでいます。そのため、日本周辺では複雑な力



出展：気象庁ホームページ「世界の主なプレートと地震の分布」
https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/jishin/about_eq.html

がかかり、世界でも有数の地震大国となっているのです。東日本大震災では日本海溝に沈み込む海のプレートに引きずられた陸のプレートが反発して、大地震と大津波を引き起こしました。2016年の熊本地震は、陸のプレートの内部に力が加わり、断層が動いて発生した地震です。

地震で最も怖いのは津波の被害です。東日本大震災では14時46分の地震発生後、14時49分に津波警報が出され、宮城県石巻市で30分後、岩手県宮古市で32分後に3mの津波を観測しています。その後、7～8mの巨大津波になるまでわずか5分程度しかかかりませんでした。1983年5月の日本海中部地震では秋田県男鹿市の海岸を遠方で訪れた小学生13人が地震による津波に飲み込まれ命を落としています。地震発生が11時59分。そのわずか9分後には津波が到達しています。

海の近くに生活している人たちは、常に地震と津波を考えながら生活し、また避難訓練等も頻繁に行っています。しかし、都市部や内陸部に住んでいる人たちは、「地震＝津波」と即座に考えることができるでしょうか。もし、隊活動で潮干狩りに出かけていたら、海沿いの道をサイクリングしていたら、海辺のキャンプ場でキャンプしていたら……。安全計画に地震発生を想定した対応が考えられていますか。避難路を確認していますか。危険は海の近くだけではありません。山間部では斜面崩落や落石が、都市部ではビルの倒壊や落下物の危険が考えられます。

3. スカウトスキルを活かして

「このくらいの地震なら大丈夫」と思いたい、その数分間の時間のロスが避難の遅れにつながり、取り返しのつかない事態に陥ってしまうかもしれません。その教訓は、これまでの多くの地震災害で示されています。「地震が起きたら急いで高台へ避難する」という訓練を重ねていた小中学校で、その訓練に基づく行動が多くの人命を救った例がありました。

守るべきは自分とスカウトたちの命です。最初の一撃を避けることができれば、これまで身につけたスカウトスキルが命をつなぐのに役立ってくれます。ロープ結び、野営技能、野外料理の技、山野草の知識、水を浄化する方法など、これまでスカウト活動で取り組んだことがよみがえってくるはず。ですから、活動中に地震が起きたら、まず身を守ることを第一に考えて行動できるよう、日々のスカウト活動で意識的に取り組んでいくことが重要です。

■ 東日本大震災以降の死者の出た地震

年月	震央地名	M	人的被害	物的被害
2021年2月13日	福島県沖	7.3	死1、負傷187	全壊69、半壊729、損壊19,758
2018年9月6日	胆振地方中東部	6.7	死43、負傷782	全壊469、半壊1,660、損壊13,849
2018年6月18日	大阪府北部	6.1	死6、負傷462	全壊21、半壊483、損壊61,266
2016年4月14日～	熊本県熊本地方など	7.3	死273、負傷2,809	全壊8,667、半壊34,719、損壊162,500
2012年12月7日	三陸沖	7.3	死1、負傷15	損壊1
2012年3月14日	千葉県東方沖	6.1	死1、負傷1	損壊3
2011年6月30日	長野県中部	5.4	死1、負傷17	半壊24、損壊6,117
2011年4月11日	福島県浜通り	7.0	死4、負傷10	※東日本大震災に含める
2011年4月7日	宮城県沖	7.2	死4、負傷296	※東日本大震災に含める
2011年3月12日	長野・新潟県境	6.7	死3、負傷57	全壊73、半壊427

「セーフ・フロム・ハーム」・安全委員会

お詫びと訂正／本誌発行版からWEBサイト掲載版における修正

本誌発行時、岩手県釜石市と宮城県石巻市とを誤って記載しておりました。多くの方々には不快な思いをおかけしましたことに、深くお詫びを申し上げます。また、当該の本文末尾9行目の表現が適切ではないとご指摘をいただき、それを改めました。今後このようなことのないよう、原稿執筆陣、編集担当者ともども連携を深め、記事記載内容の確認体制を改めてまいります。

「自分だけは大丈夫」と思っていませんか？ ～正常性バイアスと事故・災害～

1. はじめに

スカウト活動を行う際は、「あらかじめよく考えておく」、すなわち事故につながる場面を想定した準備を行うことが安全対策として重要です。また、これまで『野外活動のための安心・安全講座』に掲載された事故の事例を参考に、事故が起こった場合の対応策、ルールを考えておくことも重要です。スカウト活動に限らず、日常生活の多くの場面で、事故や災害に遭遇した場合を想定して避難訓練などの安全対策や避難指針などの対応策、ルールが策定されています。そのような状況にも拘らず、災害の規模が大きくなってしまふことがあります。それはなぜでしょう？

2. 心のメカニズム（無視と過小評価）

「正常性バイアス」という言葉をご存知でしょうか？ バイアス (bias) とは、傾向、偏向、先入観、データの偏り、思い込み要因、情報の偏りによる認識の歪みを意味します。例えば、全国の世論調査を行う場合に、ある地域の、ある特定の年代に対してだけ調査を行うようなことがあれば、本来の結果から偏った結果になってしまいます。このような場合のデータ（調査）の偏りをバイアスと呼んでいます。「正常性バイアス」とは心理学の用語で、人間の判断や認知、意思決定における恣意的なバイアスの一つで、自分に都合の悪い情報を無視したり、それを過小評価したりしてしまう心理的な特性を指します。事故や災害が起きた際に、「ありえない」、「自分（たち）は大丈夫」、「今回は大丈夫」、「まだ大丈夫」と考えることが「正常性バイアス」といわれています。過剰に反応してパニックにならないための心のメカニズムで、人間の心のある程度まで平穏に保つために必要な反応ですが、度がすぎると、回避行動や避難行動の遅れにつながるものが指摘されています。

普段のスカウト活動では、新しいプログラムよりも、これまでに何度も取り組んでいる慣れたプログラムの方が「正常性バイアス」に入り込みやすいかもしれません。何度も実施しているので事故など「ありえない」、慣れたプログラムなので「自分（たち）は大丈夫」、これまで何も起こらなかったで「大丈夫」。危険な場面に遭遇しても、とっさに回避行動を取れるくらいまでになっていれば良いのですが、そうでなければ「正常性バイアス」によって対応が遅れることがあるかもしれません。

3. 日頃の訓練の大切さ（やはり、そなえよつねに）

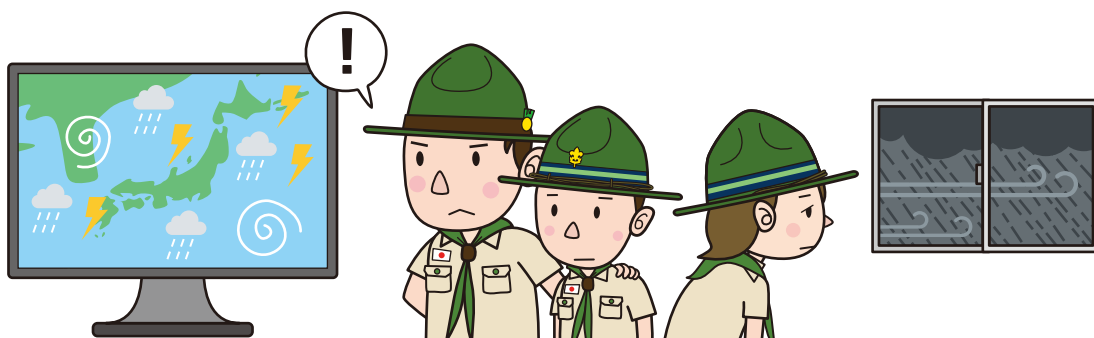
令和3年5月20日に災害対策基本法が改正され、災害時における円滑かつ迅速な避難の確保を図る趣旨から、自治体が発令する避難情報が増えられました。これまで災害発生情報、避難指示、避難勧告、避難準備などさまざまな情報で災害の警戒を知らせていましたが、近年の大雨・集中豪雨に伴う大規模災害において、避難勧告のタイミングで避難せず、逃げ遅れにより被災する者が多数発生したり、避難勧告と避難指示の違いが、十分に理解されていなかったことの反省に基づくものです。5月20日からは、緊急安全確保、避難指示、高齢者等避難などの具体的な指示となり、避難指示では該当地域のすべての人が避難することになります。

今回の改正で災害が減少することを期待するばかりですが、「正常性バイアス」の働きは考慮しておかなくてはなりません。これまでそんな災害には遭遇していないので「ありえない」、「大丈夫」。そんな考えが避難の遅れにつながったと考えられる災害の事例はこれまでもたくさんあります。野外活動、特に不慣れな場所での活動の際には注意が必要です。「正常性バイアス」に陥らないためにも、日頃の訓練、そなえよつねに、が重要です。



出展：新たな避難情報に関するポスター・チラシ（内閣府）
http://www.bousai.go.jp/oukyu/hinanjouhou/r3_hinanjouhou_guideline/pdf/poster.pdf

「セーフ・フロム・ハーム」・安全委員会



ご存知ですか？ 救急箱の新常識

～お互いを守るための提案～

- 1 救急箱に薬は入れません
- 2 傷口の消毒はしません
- 3 薬は各自で用意します

1. 救急箱に薬は入れません

救急箱といえば酔い止めや痛み止め、消毒液など、さまざまな薬が入っているイメージがあるかもしれませんが、しかし、『安全ハンドブック』（2021年4月発行）に記載があるとおり、指導者はスカウトに薬を与えないことになっています。ですから、スカウト活動用の救急箱に薬を入れておくことは間違いのもとになります。では、団や隊で用意しておく救急用品には、どんなものがあるのか？ 持ち歩ける程度の内容をリストアップしてみます。

2. 傷口の消毒はしません

消毒は皮膚の細胞を傷つけてしまうため、今は行わないのが一般的です。擦り傷や切り傷はきれいな流水でよく洗い、傷口が乾かないようラップを巻き、テープや包帯などで止めます（湿潤療法）。傷の治りが早く、跡も残りにくくなりますが、異物が残っていると化膿して逆効果になりますので、綿棒を使用するなどして、しっかり洗浄するよう心掛けてください。翌日、良くなっていなかったり、悪化している場合は医療機関の受診が推奨されます。また、傷が深い場合や汚染が著しい場合は、破傷風の危険性もあり、抗生物質の投与が必要になることもありますので、早急に医療機関を受診してください。

3. 薬は各自で用意します

救急箱には薬の用意がないことを、保護者会などであらかじめお知らせしましょう。必要な薬はご家庭で用意していただくため、活動場所や季節により用意すべき薬の情報を伝えます。下見や事前の調査で検討し、安全対策に盛り込み、持ち物として提示しましょう。ただし、初めて使う薬は思わぬ副作用が起こる可能性もあります。一度少し使ってみて、かぶれなどを起こさないかチェックしてから持参してもらうのがよいでしょう。

指導者はスカウトが持参した処方薬を、保護者の依頼に基づき「介助」すること（安全ハンドブック P149 参照）、はできますので、薬の携行が必要なスカウトとは、保護者も含めて事前によく話し合い、緊急時の対応等を確認しておくことが必要です。

救 急 箱	
救急用品	使用方法など
はさみ	持ちやすく、先が丸く尖っていないもの
トゲ抜き	トゲ抜きは本人が行う
ポイズンリムーバー	蜂に刺されたときに毒素を吸引する器具。先端に体液がつくので使用後は消毒綿で拭く。口をあてて毒素を吸い出しはけない
体温計	非接触型がよい。電池切れに注意
救急絆創膏	小さい傷に。大小あると便利
ラップ 15cm サイズ (またはドレッシング材各サイズ)	大きな擦り傷を乾かないようにする。火傷を保護する
滅菌ガーゼ	傷口を保護するため。各種サイズ個包装のものを推奨
サージカルテープ	ガーゼ、ラップを止める。紙テープよりかぶれにくく切りやすい
伸縮包帯・ネット包帯	ガーゼ、ラップを固定する、傷口を保護する
三角巾	患部の固定や保護に。使い方をしっかり学んでおく
ビニール手袋	感染を防ぐため、出血時の処置の際には必ず着用する
保冷剤・氷嚢・冷却シート	熱中症対策、打撲などに。ビニール袋に氷を入れて代用可
メモ帳、ペン類	救急処置は処置の記録を残すことが重要（いつ、どんな処置）

※ 年齢や活動内容により、怪我のタイプも違いますので、各隊や団の状況に合わせて種類や数量を検討してください。

※ 救急箱はいつも万全の備えが必要です。キャンプの前や年度初めには、必ずチェックしましょう。

え！ いけないの？ 「お薬あるある」NG 事例

活動中に具合が悪くなってしまったスカウトを、なんとか元気にしてあげたい。そんな優しい気持ちが、かえって副作用を引き起こすことになってしまう場合もあります。前号に続き、今号も「救急箱」をテーマに、薬に関する事例をもとに対応を考えてみましょう。

救 急 箱			
+			
	NG 事例	NG 理由	対応例
事例 1	スキーの後、スカウトが「ふくらはぎが痛い」と言いに来た。指導者自身が整形外科でもらっている湿布を貼ってあげた。	医師から処方される薬は、医師がその人の症状に適切であると判断して選んでいます。自分と似た症状だからとか、たかが湿布と安易に考えてはいけません。湿布にも副作用が起こる可能性があります。	冷やす必要がある場合は、氷嚢や冷却シートを用います。腫れや痛みが著しい場合は、医療機関を受診します。
事例 2	「生理痛でお腹が痛い」と、お腹を抱えて座り込むスカウトに、指導者が持参した生理痛の薬（解熱鎮痛薬）を飲ませた。	市販の解熱鎮痛薬には、眠気やふらつきをおこす成分を含むものがあります。喘息発作や胃痛などの副作用が起きる場合もありますので、本人が飲み慣れているもの以外は、飲ませるべきではありません。	静かなところで休ませます。必要な薬は、各自飲み慣れたものを用意するよう、日ごろから保護者に伝えておきましょう。
事例 3	「目にゴミが入った」と目をごすスカウトに、指導者が持参した花粉症の目薬を点眼した。	目薬の先端にまつ毛などが触れることにより、目薬そのものが菌に汚染されてしまうことがあります。他人の目薬を使うことで、目の病気がうつることもありますので、絶対に共有しないでください。	流水で洗います。異物感がなくならない場合は、眼科を受診します。
事例 4	「虫に刺されてかゆい」と訴えてきたスカウトに、指導者が以前皮膚科でもらった、よく効く塗り薬を塗ってあげた。	皮膚科でもらう塗り薬は、非常に強い効果のあるものからマイルドなものまでさまざまです。皮膚の状態も個人差があり、年齢や部位によっても薬の効き具合が異なります。専門家の判断なく、適当に塗ってはいけません。	冷やすことでも痒みはやわらぎます。著しく腫れたり、痛んだり、広範囲な場合は、皮膚科を受診します。虫よけ剤や虫刺されの薬は、各自用意します。

薬には〈主作用：病気が治る・症状が軽くなる〉と〈副作用：本来の目的以外の好ましくない症状が出る〉という2つの面があります。特に副作用は、人によって表れ方が全く異なるため、自分にとっては苦痛を取り除いてくれる良い薬でも、別の人にとっては副作用を引き起こす怖い薬である場合もあるのです。安心・安全な活動のために、『薬は各自で用意する』ということを浸透させていきましょう。

本当にそれでいいのかな？

～計画書作成、下見実施、保険加入のあるある～

スカウト活動において、私たちは安全について特に注意を払い、計画書の作成や下見、保険加入など、さまざまな対策に努めています。しかしながら、慣れや忙しさから、その本質をつい忘れてしまうようなことはありませんか。

今号では、指導者に起こり得る「あるある」を事例に、自分の行動を振り返って考えてみましょう。

安全計画書あるある ～ビーバー隊の隊集会にて～

- 団委員長** 「入隊式後初めての集会だから、ちょっと見に来ました。活動にもってこいの場所ですが、いくつか危なそうなところがあるようですね。安全計画書はどうなっていたかな？ 隊長、ちょっと見せてもらえますか？」
- 隊長** 「あっ…… 車の中に置いたままです。副長、ちょっと見せてくれるかな」
- 副長** 「私はリーダー会議を欠席したので、計画書をもらっていません」

✓ **安全計画書は「作ること」が目的になっていませんか？
作ることによって「安心」していませんか？**



計画書作成の際、プログラムを実施するうえで想定される危険やリスク（やけど、溺れる、熱中症等）を把握し、その対処法（事前準備、監視、救命具の準備、水分補給等）を検討します。そうすることで、計画書の作成過程で、プログラム上の安全対策を立てることができます。

また、計画書で情報を共有し、指導者会議や団会議等でチェックを重ねることで、より充実した安全対策ができます。

下見あるある ～カブ隊のリーダー集会にて～

- 隊長** 「8月の隊集会はキャンプですが、場所は〇〇山キャンプ場で決まりですね」
- D L 1** 「あのキャンプ場は、いい場所だと聞いています。さっそく下見ですね」
- D L 2** 「私、そこにはよく行くのですが、近くに美味しいパスタのお店があるんですよ」
- 副長** 「じゃあ、早めに出かけて、打ち合わせを兼ねてランチでもしましょうよ」
- 隊長** 「日程は来週の日曜日でどうでしょう？」
- D L 1** 「その日なら行けます」
- D L 2** 「私もその日は大丈夫です」

✓ **下見は「行くこと」が目的になっていませんか？**



安全に活動するためには、原則として下見が必要です。活動場所を実際に確認することで、具体的な安全対策ができます。

裁判例では、下見は「危険発生に関する未知ないし不確定要素を把握して取り除く」ものとされています。下見をすることで具体的な危険を予測し、その危険を除去することが求められます。

保険あるある ～団会議でのボーイ隊長の報告にて～

- 隊長** 「今、お配りしたのが、ボーイ隊の夏キャンプの計画書です」
- 団委員長** 「スカウトがチャレンジしがいのある、冒険的なプログラムですね。ただ、この活動は事故も起こりやすそうだし、保険の対象にはならないのでは？」
- 隊長** 「『そなえよつねに共済』の手引きを見たら、適用されるみたいです」
- 団委員長** 「それなら安心ですね!!」

✓ **保険に入っていたら「安心」で終わっていませんか？**



どんなによい活動でも、事故が起こってしまえば最悪の活動になってしまいます。指導者は、活動において第一にスカウトの安全を確保しなければなりません。

安全を確保するためには、日ごろから知識と技能、安全に向けた態度を持ち合わせておくことが大切です。

参考書籍 / 『安全ハンドブック ～ダイナミックなスカウティングのために～』（2021年4月発行）

「安全計画書」「下見」「保険」は、どれも安全を確保するうえで大切で欠かせませんが、上記のように、それぞれ「作成」「行くこと」「加入」自体が目的になってはいませんか？

スカウトが「安全」に、指導者が「安心」して活動するために、それぞれの本当の意味を再確認してみましょう。

野外活動のための 安心・安全講座 2021 年発行版

SCOUTING

スカウティング誌掲載記事
[2021年5月号～2022年3月号 抜粋]

令和5年1月24日

発行  公益財団法人
ボーイスカウト日本連盟

〒167-0022 東京都杉並区下井草4-4-3

電話: 03-6913-6262(代表) ファックス: 03-6913-6263

e-mail: program@scout.or.jp
